

Face

スポーツを通じて育む “礼儀正しさのDNA”

子どもたちがスポーツを楽しみながら、挨拶や礼儀作法を学ぶ。体育と道徳を融合し、バランスのよい子どもを育てる認定NPO法人マナーキッズプロジェクト。理事長の田中日出男さんは、活動を始めたきっかけを次のように話す。

「近所の学校で登下校の様子を見たとき、先生がいても生徒は目の前を素通り。最近の子どもは挨拶する習慣がないことに気づきました。これではいけないと、母校の早稲田大学テニス部OBに働きかけ、小学生を対

象にテニス教室を開いたのがスタートです」
以来、自らも指導者として各地に出向く。全国の幼稚園や小学校で実施したマナーキッズテニス教室は、高い評価を得ている。07年にはNPO法人格を取得。サッカー、野球、ラグビーなどにも領域を広げ、これまでに約5万4000人が参加した。マナーキッズ教室ではスポーツを始める前に、小笠原流礼法総師範が正しいお辞儀や挨拶を指導するのが特徴だ。たとえば、挨拶の言葉を言い終えてからお

辞儀をする、お辞儀をした後は必ず相手の目を見るなど。それをスポーツをしながら繰り返し実践していく。テニスを打つたび指導者に「よろしくお願ひします」「ありがとうございます」と挨拶するのだ。
「最初は姿勢が悪く、挨拶も小声だった子どもたちが、90分の授業で見る見る変わります。今まで誰も教えてこなかっただけで、子どもたちは教われればきちんと挨拶できる。礼儀正しさの遺伝子は残っていると確信しています」と田中さん。

本誌/小山由香



PHOTO/高坂敏夫

認定NPO法人マナーキッズ®プロジェクト理事長

田中日出男さん Hideo Tanaka

1940年生まれ。1996年、マナーキッズプロジェクトのきっかけとなった早稲田大学蹴球部小学生テニス教室を開校。三菱化学株常務取締役、江本工業株取締役社長を経て、2004年、財団法人日本テニス協会マナーキッズプロジェクトの実験を始める。2005年、同プロジェクトディレクター、2007年からNPO法人マナーキッズプロジェクト理事長、インパクトコンサルティング顧問。

最後は全員でそうきんがけをし、修了証書が渡される。指導者と笑顔で握手を交わしてお礼の言葉を伝える。シニア世代を中心としたボランティアの指導者たちも、子どもの姿に元気をもらおうという。子どもがマナーキッズ教室を体験している間、保護者は別室で「家庭内の躾」の講話を聞くのもユニークだ。
企業等からの寄付で活動を続けてきたが、行政にも子どもマナーに関心をもち、支援してほしいと望んでいる。東京都品川区が自治体で初めてマナーキッズテニス教室を予算化した。10年度は「市民科」授業として17小中学校で実施している。3月26日に開かれる第4回全国マナーキッズフォーラム2011では、同区の学校を会場に実際の授業風景を見学できる。
「今後も多くの学校で導入してもらえよう地域のロータリークラブなども連携し、各地に支部を作りたい。身につけたマナーを持続させるには家庭・学校・地域社会のフォローが不可欠。まちを挙げて挨拶運動を展開する「マナーコミュニティ」のモデル市町村も募集中です」